

新型コロナウイルスの影響下におけるチーム遵守事項(ガイドライン)

一般財団法人福島県サッカー協会
フットサル委員会

I. 通常活動時の感染防止策について

チーム代表者は、選手、スタッフ等の健康状況を把握したうえで、活動を行う。

- ① 以下の事項に該当する場合は活動を見合わせる
 - 体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ② 参加者全員がマスクを着用すること。（練習中、ウォーミングアップ中は除く。）
- ③ 活動場所での感染を防ぐ対策を講ずること。（3つの密にならないようにすることや手洗い等）

II. 大会参加時の感染防止策について

1. 移動時の対応

出発時に選手及びスタッフに、検温結果（各自、朝に検温すること）と上記 I の①を確認し、該当する場合は、参加させないこと。それに基づき健康チェックリストを作成すること。
可能な限り、小グループでの移動を心掛け、移動中は、マスク着用、換気等の対策を行うこと。

2. 会場における感染防止対策

- ① 開催時自体の方針や施設のガイドラインに従って、参加人数や使用時間に配慮すること。
- ② 諸室を含めた会場内は窓を開放して常時換気すること。
- ③ 観客席等での休憩中も周囲との距離を保つよう配慮すること。
- ④ 暑熱対策を十分配慮し、こまめに水分補給をすること。
- ⑤ 参加チームは、運営責任者にMCMの際、健康チェックリストを2部提出（本部用・施設用）すること。
また、試合の際は、下記事項を遵守すること。
 - 一般観客を入場させない。且つスタッフ等関係者の人数制限をする。
 - 更衣室は使用しない。
 - 試合前、試合後に相手チーム、審判団との握手は実施しない
 - 円陣はしない
 - 倒れた選手に手を貸さない
 - 得点時にハイタッチ、抱擁を行わない
 - ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐く、手鼻をかむなどの行為を行わない
 - 口に含んだ水を吐かない
 - ボトルを共有しない（飲水については、各自個人ごと準備すること）
 - 水・氷を溜めたクーラーボックスを共有しない
 - タオル等を共有しない
 - ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離についてしっかりと配慮する
 - ベンチではマスクを着用し、大きな声をださない。極力会話を控える
 - ゴミは、チームで管理し、収集、処分し、その際はマスクや手袋を必ず着用する
 - ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り廃棄し、その際はマスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する
 - 酷暑時のマスクは熱中症のリスクが高くなるおそれがあるため、屋外で人と十分な距離（少なくとも 2 m 以上）が確保できるときは、マスクを外してもよい
 - マスクの装着なしで大声を出さない。

3. 事後対応

- ① 健康管理表（チェックシート）の1ヶ月保管
- ② 競技会終了後3日以内のチーム状況確認
- ③ 万が一競技会終了後14日以内に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は、一般財団法人福島県サッカー協会（フットサル委員長 090-6681-8227）に報告すること。